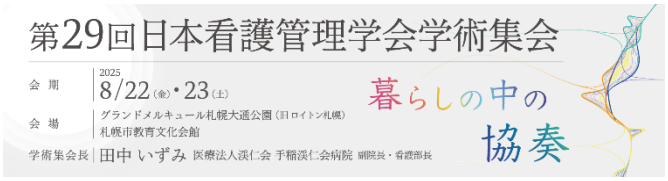
認定看護師ニュースレター第 84 号



8 月 22 日から 8 月 23 日まで北海道札幌市にて開催された「第 29 回　日本看護管理学会学術集会」に参加してきましたので情報提供と感想を述べます。

「暮らしの中の協奏」の大会テーマのもと、講演は学会集会長・基調・特別（2）・教育（6）、シンポジウム（5）、パネルディスカッション（6）、一般演題は 128 群でした。2 会場（徒歩 5 分ぐらいで移動）の 23 会場で同時進行のため、常に参加したい演題が 5-6 は重複しており計画的に可能な限り参加いたしました。学会は第 1 日目から 8 時～19 時で、ホテルから大通公園を通る際に、少し横道に逸れて朝 7 時の「時計台」だけ観光しました。

看護管理学会では管理者学会ならではのインフォメーション・エクスチェンジ（以下、IE）があります。IE とは、看護管理、看護政策に関するテーマについて、企画者らが主体的に運営し、参加者とディスカッションを目的に行うセッションです。看護管理者として何を課題として情報を共有し共に考えるかが大切となります。今回、IE は 90 題のセッションがあり、私は IE-25「既成概念から脱却！看護職員の多様で柔軟な働き方と地域での人材共有」のテーマの中で 15 分の口演発表をしました。日本看護協会看護労働課の企画で 50 分の持ち時間があり、もう 1 名の発表者と共に会場とのディスカッションに参加し、貴重な経験を得ることができました。

学会参加で特に印象深かった内容の一つ目は、パネルディスカッション 2＜協奏のカタチ＞「看護現場における DX～百聞は一見に如かず、百聞は一行動に如かず」での 4 施設の発表でした。訪問看護での積極的なエコーの活用内容、トヨタ記念病院での現場の意見の聞き取りから始めた商品開発、兵庫県立尼崎総合医療センターの経営企画部（多職種の発表）からの経営戦略、看護の業務量と質の向上など各視点からの実績評価、NTT 東日本関東病院の品質保証室（医療 DX 推進部門）からはアントレプレナーシップ（新たな事業を創造し、リスクに立ち向かう精神･姿勢）が必要であると述べられ、リスクを回避し変革していかれた術を理解しました。

改革・変革にはヒト・カネ・モノ・情報の資源が必要です。（私見ですが）新しいことを進めるときに必要な資源の 5 つ目として「トキ」があります。質の担保・改善に向けて市場調査の内容、職員の声を聞き逃すことなく考えるときが必要であり、「今なのか」「急ぐのか」をタイミングを逃さないことが大切です。2026 年度の診療報酬改定ではさらに「医療 DX の取り組み」が評価されます。法人・病院・看護部として「地域医療構想、労働力人口の減少や人口構造の変化、物価高騰、グローバル化の進展」などを考慮し医療 DX への取り組みを検討していきたいと思います。

二つ目は、教育講演 5『患者の「情報を取ってくる」を考える』がテーマで株式会社井部看護管理研究所代表／聖路加国際大学名誉教授である井部俊子先生の話でした。質問に対して質問で返されるキャッチボールのような雰囲気に質問者および会場も一体感があり、楽しいディスカッションとなりました。皆さんは、テーマを聞き何を考えましたか？井部先生は 2005 年から医学書院の医学会新聞に「看護のアジェンダ」を毎月（以前は毎週）掲載されています。私も毎月拝読し看護の本質を考えるヒントをもらいます。ぜひ、皆さんも「看護のアジェンダ」をネット検索し、一部紹介されている内容でも読んでみてください。

最後に、日本看護協会看護師職能委員 2 年目となりました。引き続き、地域を取り巻く看護の場の問題点を取り上げ、看護協会から政策を上げていけるように情報を提供できる役割を担っていきたいと思います。

今後も、認定看護管理者および看護管理者として、柔軟に、かつ冷静に、社会の動向を見ながら、法人・病院・看護部、地域住民の保健・医療・福祉・介護に携わりたいと思います。

作成・承認：認定看護管理者　看護部長　　横山　藤美